白ネギ産地化に向けた農福連携による仕組みづくり

1. 産地の概要

R６年度実績

【生産者数】17名
【栽培面積】3.0ha（R2比333%）
【出 荷 量】35.7t（R2比380%）
【販 売 額】15,593千円（R2比306%）

白ネギ栽培ほ場

3kg段ボールに箱詰め

2. 取組の経過及び概要

(1)白ネギ栽培は調製作業の労働力不足が課題
　雲南地域（雲南市、奥出雲町、飯南町）の白ネギ栽培は、個人経営に加え、集落営農組織の経営多角化品目としても導入を推進。
　しかし、収穫後の根・葉切り、皮むきなど調製作業に多くの時間が必要で、稲刈り作業とも重なる時期があり労働力不足が課題。

(2)農福連携による調製作業受託の開始
　R3年に、雲南市の生産者が、規模拡大に伴い自家労力では調製作業増加に対応できないと判断。近隣でピーマン栽培や木炭製造などに取り組む福祉施設に、白ネギの調製作業を委託。

(3)調製作業の委託体制の試行と課題
　R4年、JAしまね雲南地区本部は、この事例を基に管外JA施設から根葉切り機と皮むき機を借入し、試行的な取り組みとして福祉施設へ調製作業を委託。委託した生産者は大幅な省力化につながったと好評。
　一方、福祉施設では1日当たりの処理量に限界があるため、機械の能力向上と作業スペースの拡大による調製量の増大が課題。

根葉切り機と皮むき機

福祉施設での調製作業

3. 取組の成果

(1)調製作業の仕組みづくり
　作業スペースの確保と作業効率向上のため、R5年に、調製場をJA集出荷センター内へ移転。
　作業スペースの拡大とともに「水田園芸拠点づくり事業」を活用して高性能の根葉切り皮むき機を導入し、作業性を向上。1日当たりの最大処理量は58ケースから100ケースへ大幅に増加。
　この取組により白ネギ生産者にとっては、労働力不足の対策として、福祉施設の利用者にとっては、就労機会と工賃の取得として、双方に有益。

高性能の根葉切り皮むき機

選別作業の様子

(2)調製・出荷作業の作業環境改善
　福祉施設利用者の作業環境の改善に向け、R6年に生産工程管理の専門家と農業技術センターの指導で作業工程を点検。
　作業動線の変更や出荷ダンボールを斜め置きで移動せずに結束と袋詰めにすることで作業性が向上。
　JA調製場の処理量は、R5年の7.4tからR6年の8.4t（前年比113%）に増加。

箱詰め作業の様子

白ネギ生産者から一言

調製施設で多くの生産者の白ネギを共同選荷すると、目が揃った選荷になり、市場の評価が上がる。今後も調製施設の充実に期待する。

長崎　勉　氏

4. 課題と今後の取組方向

(1)経営収支モデルの作成とモデル経営体の創出
(2)作期拡大に向けた、夏どり作型試験ほの設置
(3)JA調製場の受託可能量オーバーへの対応

〈問合せ先〉東部農林水産振興センター雲南事務所　農業部　雲南地域振興第三課　0854-42-9571